

Y5-18

失神で救急来院し、冠攣縮があったが、早期再分極の関与も疑われた2症例

山田赤十字病院 2年目初期研修医

中井 貴哉、坂部 茂俊、森 一樹、
里見 明俊、森脇 啓至、堀口 昌秀、
高村 武志、大村 崇、河村 晃弘、
世古 哲哉、笠井 篤信

12誘導心電図においてQRS終末部に記録される小さく鈍なノッチは早期再分極波(J波)と呼ばれる。早期再分極波は健常者の心電図においても認められることがあるため、良性の兆候であるとされてきた。しかし近年、特発性心室細動との関連を指摘されており、不整脈惹起への潜在的な可能性を有する波形であると考えられている。また、特発性心室細動と急性虚血との関連も指摘されている。我々は、心室細動によると思われる失神発作を主訴に、当院救命救急センターに救急搬送され、エルゴノピン負荷試験等で冠攣縮の存在が証明されたが、12誘導心電図において下側壁誘導で早期再分極所見も確認できた60歳代男性と40歳代女性の2症例について報告し、心室細動発生に早期再分極と冠攣縮が関与していたか否かについて考察する。

Y5-19

肝内腫瘍にて発見されたMTX関連リンパ腫瘍の一症例

釧路赤十字病院 内科¹⁾、

釧路赤十字病院 病理部²⁾

齊藤奈津美¹⁾、古川 真¹⁾、桑原 尚太¹⁾、
三次 有奈¹⁾、藪谷 亨¹⁾、立野 正敏²⁾、
堀 祐二¹⁾

【はじめに】メトトレキサート(MTX)は副作用の1つにリンパ腫瘍が知られている。関節リウマチ治療のためMTXを長期内服中に肝臓内に巨大腫瘍として発見されたリンパ腫瘍の症例を経験した。

【症例】64歳女性

【主訴】腹痛

【現病歴】関節リウマチにてMTX6mg/wにて効果不十分であったため2年前よりインフリキシマブ導入された。副作用なく治療継続されていた。17回目施行時に腹痛を訴えたため、腹部エコーを施行した。腹部エコーにて肝臓内に巨大な腫瘍病変を認めた。CTでも内部が不均一に造影される腫瘍病変を認め、精査目的に入院となった。

【経過】HBVキャリアであったが、肝炎・肝硬変は認めなかった。また、転移性肝癌を疑う原発巣も認めなかった。検査にて、sIL2R高値であったため悪性リンパ腫が疑われた。

MTX使用中であったため、MTX関連性リンパ腫瘍が疑われた。MTX中止したところ、1ヶ月で腫瘍径は有意に縮小した。肝生検の結果、T-cell優位のリンパ腫瘍であった。腫瘍の縮小が認められたため、MTX関連リンパ腫瘍と考えられた。

退院後、インフリキシマブからエタネルセプト皮下注へ切り替えて関節リウマチ治療中である。肝腫瘍に関しては有意な縮小を認めている。

【まとめ】MTXは副作用としてB-cell由来のリンパ腫瘍があることが知られている。今回T-cell由来の巨大肝腫瘍となった症例を経験した。

MTX使用中の臓器内腫瘍病変では原因検索においてMTX関連リンパ腫瘍を疑う必要がある。